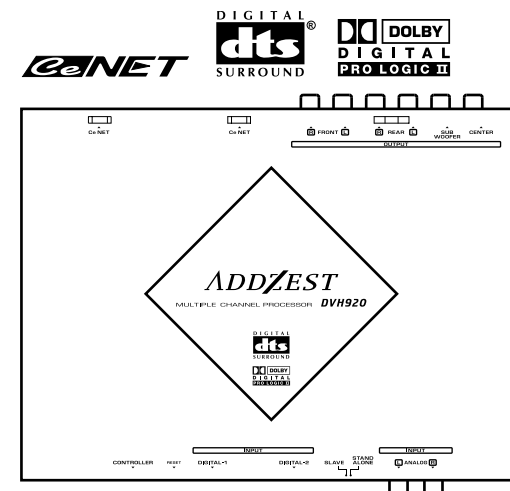


ADDZEST

5.1chサラウンドデコーダー

DVH920

取扱説明書



このたびは、アゼスト商品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

安全に正しくご利用いただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

保証書(別添)はお買い求めの販売店で記入いたしますので、内容をよくご確認のうえ、この取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

ご使用の前に知っておいていただきたいご注意を説明しています。

主な特長

主な特長	4
------------	---

ご使用の前に

安全に正しくお使いいただくために	5
安全上のご注意	6

取扱上のご注意

ご確認事項	9
Ce-NETケーブルについて	9
(別販)デジタル光ファイバーケーブルについて	9
デジタル信号について	10
DVDビデオについて	10
スピーカーシステムについて	10
接続可能機種について	11

本機にできること

操作方法(DXZ925の場合)

PLメニューを選ぶ	12
DSFメニューを選ぶ	12
DSF効果をON/OFFする	13
P.EQを調整する	13
P.EQ効果をON/OFFする	13

初期設定を変更する(DXZ925の場合)

スピーカーの有無を設定する(SP-SEL)	14
スピーカーのフィルター周波数を調整する(FILTER)	14
スピーカーの出力レベルを調整する(SP-GAIN)	15
スピーカーのディレイ時間を調整する(DELAY)	16
ドルビーデジタル機能を設定する(Dolby D)	16
ミュージックモードを細かく設定する(PL CONT)	17

取付・結線のしかた

本機の手付けおよび結線方法について説明しています。

結線方法

各部の名称	18
結線のしかた	19

取付方法

取付上のご注意	20
取付例(シート下へ取付ける場合)	20

その他

システムアップについて	21
システム例	21
故障と思われる前に	25
仕様	25
製品構成	26
アフターサービスについて	26

主な特長

DTS/ドルビーデジタル/プロロジック デコーダー内蔵

- DVDビデオのサラウンドフォーマットDTS、ドルビーデジタル5.1チャンネルを独立して再生します。(別販・デジタル光ファイバーケーブル接続時)
- CDやラジオ放送などの2チャンネル信号を最新のデジタルマトリクス技術によって、5.1チャンネルにデコードするプロロジックを採用

演算処理能力に優れた新開発32bitDSP LSI採用

- DTS、ドルビーデジタル5.1chフォーマットまたドルビープロロジックをデコード後に、6パターンの音場効果をかけることができるDSF機能
- 最適な音響特性を実現できるパラメトリックイコライザー機能

全チャンネルに高精度96kHz/24bitD/Aコンバーター採用

新型デジタル入力端子の採用

- デジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzに対応しています。

32kHz : MP3など
44.1kHz : CD-DA, CD-R, CD-RW, MD
48kHz : DVDビデオ
96kHz : DVDビデオ

アナログ入力端子(RCA2ch)装備(別販・コントロールユニット接続時)

- アナログ入力端子にセンターユニット等のRCA2ch出力を接続した場合、ドルビープロロジック機能により5.1ch出力に変換することができます。

ナビ音声ミックス機能(ナビゲーション接続時)

シート下に取付け可能な薄型シャーシ

DTSについて

- DTS(Digital Theater System)は、デジタルシアターシステムズ社の開発した音声圧縮技術です。低圧縮のためデータ量が多く高音質再生が可能です。

DTSは米国Digital Theater Systems社の登録商標です。本製品は米国 Digital Theater Systems社からの実施権に基づき製造されています。

ドルビープロロジック について

- ドルビープロロジックは最新のデジタルマトリクス技術を応用し、これまでのドルビープロロジックをさらに改良したマトリクスデコード技術です。ドルビーサラウンドソースをはじめ、CDのようなステレオ音源に対しても優れた5.1ch再生を実現します。
サラウンドチャンネルはフルバンド化(20Hz~20kHz)ステレオ化され、あらゆるステレオ音源は、5.1chの迫力あるサウンドでお楽しみいただけます。再生するソースに合わせてMUSICモード、MATRIXモード、MOVIEモード、VIRTUALモードの4つのモードが選べます。
- ドルビーデジタルは、5.1チャンネルの完全独立デジタルディスクリット方式のフォーマットです。フロント3chとサラウンド2ch、低域効果音に0.1chの信号が独立した状態で記録されているため、チャンネル間のクロストークもなく、音の定位感、遠近感など忠実に再現します。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー、Pro Logic、及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

ご使用の前に

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この「取扱説明書」への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は警告・注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中などには具体的な注意内容(左図の場合は指はさまれ注意)が描かれています。



⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中などには具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



❗ 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

安全のため、ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

お読みになったあとはいつでも見られる所(グローブボックスなど)に必ず保管してください。

■ ご使用の前に

安全上のご注意

使用上のご注意

⚠ 警告

走行中は運転者による操作をしない…

運転者が操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

本機を分解したり、改造しない…

事故や火災、感電の原因となります。

音が出ないなどの故障状態で使用しない…

事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

本機の取り付けおよび取り付けの変更は、安全のため、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に依頼する…

そのまま使用すると事故や火災、感電の原因となります。

本機の取り付けおよび取り付けの変更は、安全のため、必ずお買い求めの販売店または最寄りの弊社修理相談窓口に依頼する…

専門技術と経験が必要です。



⚠ 注意

運転中の音量は、車外の音が聴こえる程度で使用する…

車外の音が聴こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

本機を車載用以外には使用しない…

感電やケガの原因となることがあります。



作業をはじめる前に

⚠ 警告

取り付ける車のバッテリー電圧を確認する…

本機はDC12V車専用です。大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車では使用しないでください。火災や故障などの原因となります。

配線作業中は、バッテリーのマイナス側のケーブルを外す…

ショート事故による感電やケガの原因となります。



取付場所について

⚠ 警告

本機を次のような場所に取り付けない…

- ・前方の視界を妨げる場所
- ・ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所
- ・同乗者に危険を及ぼす場所運転操作を妨げたり、外れたりして、交通事故やケガの原因となります。



⚠ 注意

雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気、ほこりの多いところへは取り付けない…

本機に水や湿気、ほこりが混入すると発煙や発火の原因となることがあります。

振動の多いところなど、確実に固定できないところには取り付けない…
本機が外れて、事故やケガの原因となることがあります。



取付上のご注意

⚠ 注意

必ず付属の部品を指定通りに使用する…

指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定されずに外れたりして、事故や故障などの原因となることがあります。

車体に穴を開けてコード類を配線するときは、絶縁性グロメットを使用する…
開口部とコード類との接触により、すりきれてショートし、事故や火災の原因となることがあります。

車体の重要保安部品(ステアリング、シートレール、ブレーキ系統、ガソリンタンクなど)に取り付けられているボルトやナットは絶対に使用しない…
これらを使用すると制動不能や故障、発火の原因となることがあります。

車体のネジを使用して取り付けを行うときは、ネジがゆるまないように確実に締め付ける…

ネジがゆるみ、事故や故障などの原因となることがあります。



■ ご使用の前に

安全上のご注意

取付上のご注意

⚠ 警告

車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認のうえ、これらと干渉や接触することがないように注意する…パイプ類などの破損により、火災や事故の原因となります。



結線上的ご注意

⚠ 警告

接続コード類の配線は高熱部を避けて行う…

コード類の被覆が溶けてショートし、事故や火災の原因となります。特にエンジンルーム内の配線には注意してください。



コード類は、運転操作の妨げとならないようにまとめておく…

ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。



⚠ 注意

正規の接続をする…

誤った接続をすると、事故や火災の原因となることがあります。



コード類の結線終了後は、コード類をクランプや絶縁テープで確実に固定する…

コード類が車体部分との接触により、すりきれてショートして、事故や火災の原因となることがあります。



車体やネジ部分、シートレールなどの可動部にコード類をはさみ込まない…断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。



■ 取扱上のご注意

ご確認事項

本機は単体では動作しませんので、必ず操作可能なアゼストセンターユニット (CeNET対応) または、5.1chサラウンドデコーダー用コントロールユニット (DVC920) を組み合わせて、ご使用ください。

接続可能なアゼストセンターユニットについては、「システムアップについて」(21ページ) をご覧ください。また、販売店または弊社お客様相談室にお問い合わせください。

CeNETケーブルについて

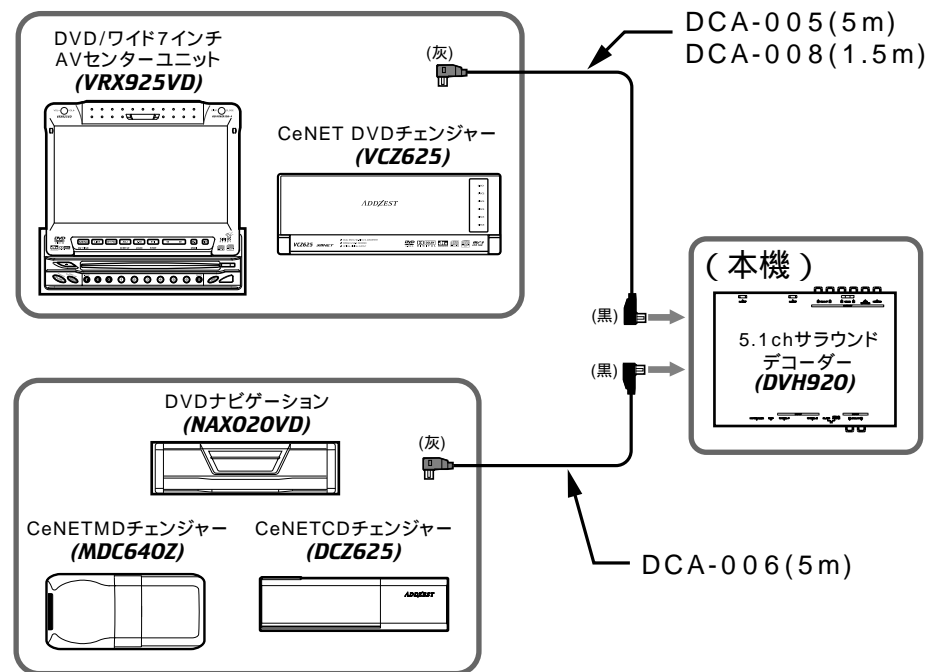
CeNET接続ケーブルの最大配線長は、20m以下です。(CeNET分岐ケーブルCCA-519含む) 接続の際は、配線長が20mを越えないように、注意してください。

(別販)デジタル光ファイバーケーブルについて

本機に接続する(別販)デジタル光ファイバーケーブルは、接続するCeNET機器により異なります。必要なデジタル光ファイバーケーブルについては、接続するCeNET機器に付属の取付説明書をご覧ください。

また、デジタル光ファイバーケーブルを接続したときは、必ず、リセットスイッチを押してください。

Ce-NET機器の接続例



取扱上のご注意

デジタル信号について(デジタル光ファイバーケーブル接続時)

デジタル光ファイバーケーブルを接続した機種(DVDチェンジャー等)は、デジタル信号が優先されます。

ドルビーデジタル5.1ch及びDTSソースを再生する場合、必ず別販のデジタル光ファイバーケーブルを接続してください。

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数96kHzまでのデジタル信号に対応しています。96kHzの音声を再生するには、これに対応したDVDプレーヤーが必要です。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

デジタル/アナログ信号入力による音場効果・音場補正について

入力信号	サンプリング周波数	記録フォーマット	記録チャンネル数	PL 機能	DSF機能	P.EQ機能
デジタル信号	fs=32kHz	MP3など	2ch	○	○	×
	fs=44.1kHz	CD-DA	2ch	○	○	○
	fs=48kHz	リニアPCM	2ch	○	○	○
		ドルビーデジタル	2ch	○	○	○
			2ch以外	×	○	○
		D T S	2ch~5.1ch	×	○	○
アナログ信号	fs=96kHz	リニアPCM	2ch	×	○	×

(○ : 調整できます。 × : 調整はできませんが、音声の処理はされません。)
(アナログ信号 : CeNET端子または、アナログ入力端子に接続した場合)

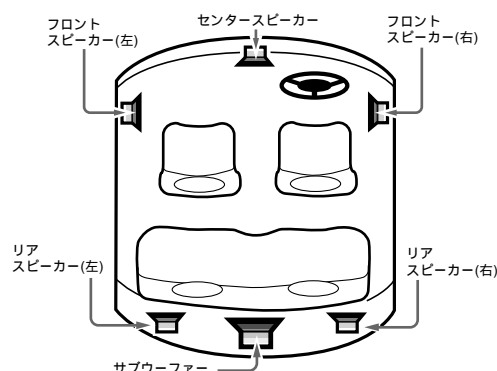
DVDビデオについて

DTS対応のDVDビデオや音楽CDを再生し、本機がDTS信号を認識するまでの短時間の間、ノイズを発生する場合があります。

ドルビーデジタルまたは、DTSソースを再生中にサーチ/スキップ/ポーズを操作してから再生すると、音が途切れる場合があります。

スピーカーシステムについて

本機の音場再生機能を最大限にお楽しみいただくために、5.1chのスピーカーシステムをお勧めします。音響特性を最大限に発揮させるため、使用する前にスピーカーシステムの構成に合わせ、アジャストモードの「SP-SEL」「FILTER」「SP-GAIN」「DELAY」の初期設定を変更してください。(14~16ページ参照)
尚、2ch音源(音楽CD等)を5.1ch再生するためにはドルビープロロジックの各モードを選択またはDSF「ON」の設定が必要です。(12~13ページ参照)



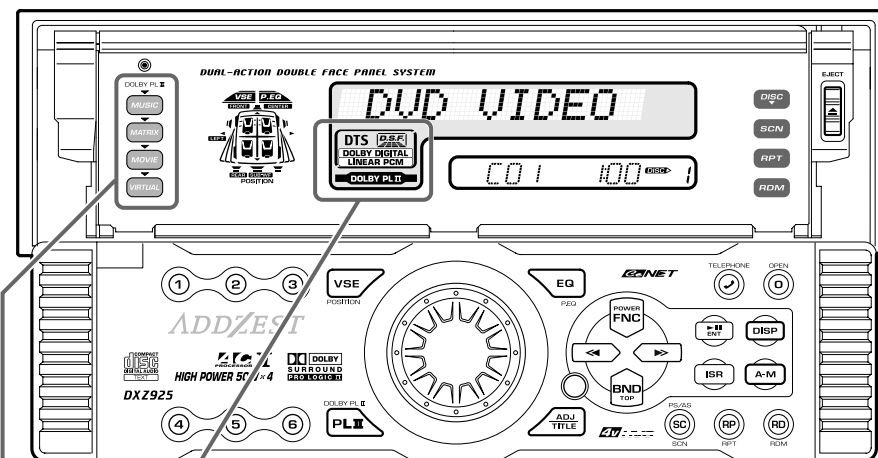
接続可能機種について

本機を操作可能なCeNET対応アゼストセンターユニットは、DXZ925、VRX925VDです。この取扱説明書においては、DXZ925の操作例を説明しています。VRX925VDについては、VRX925VDに付属の取扱説明書をご覧ください。

DXZ925と本機を接続することにより、以下の機能が変更されます。

- ・ドルビープロロジック モードが2モード追加され、フルモードにバージョンアップします。
- ・VSE、ポジション、バス/トレブルモードからDSFモードに変更されます。
- ・P.EQモードのベーシックメニューがなくなり、各スピーカーを細かく調整できます。

DXZ925ディスプレイ表示

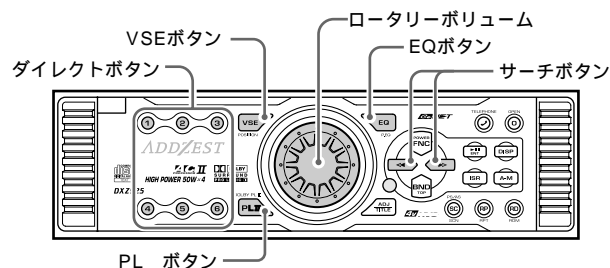


- DOLBY DIGITAL** : ドルビーデジタルインジケータ
デジタル入力端子より、ドルビーデジタルを再生したときに点灯
- LINEAR PCM** : リニアPCMインジケータ
デジタル入力端子より、CD/リニアPCMを再生したときに点灯
- DTS** : DTS インジケータ
デジタル入力端子より、DTSを再生したときに点灯
- DOLBY PL II** : ドルビープロロジック インジケータ
ドルビープロロジック 機能の各モードを選択したときに点灯
- DSF** : DSFインジケータ
DSFメニューを選択したときに点灯

ドルビープロロジック インジケータ

- DOLBY PL II** : MUSICモード
- MATRIX** : MATRIXモード
- MOVIE** : MOVIEモード
- VIRTUAL** : VIRTUALモード

操作方法 (DXZ925の場合)



PL メニューを選ぶ

ドルビープロロジック モードについて...

- 初期設定は「PL OFF」です。
- 「SP-SEL」の設定でセンタースピーカー及びリア(サラウンド)スピーカーを「OFF」した場合は、PLメニューの選択は、できません。
- ドルビープロロジック モードを選択した場合、ドルビープロロジック の特性上、音量が小さくなります。ドルビープロロジック モードを「OFF」する時は、音量を下げてから切換えてください。
- ドルビープロロジック モードを「ON」またはDSF「ON」以外では、センタースピーカーから音声は出力されません。(2ch音源再生時)

MUSIC MODE (ミュージックモード)

- CDなどのステレオ音源に適したモードです。

MATRIX MODE (マトリックスモード)

- AM/FMラジオなどの音源に適したモードです。

MOVIE MODE (ムービーモード)

- 映画ソースなどの音源に適したモードです。

VIRTUAL MODE (バーチャルモード)

- 映画ソースなどの音源に適したモードです。

1 PL ボタンを押してお好みのモードを選ぶ



押すたびに、次のように切り換わります

ミュージックモード(MUSIC MODE)

マトリックスモード(MATRIX MODE)

ムービーモード(MOVIE MODE)

バーチャルモード(VIRTUAL MODE)

PL モードオフ(PL OFF)

DSFメニューを選ぶ

DSF(デジタル・サウンド・フィールド)について...

音場シミュレーションによりホールやライブハウスなど、その場所にいるような臨場感が手軽に得られます。

- 初期設定は「OFF」です。

- DSFメニューを選択した場合、音量が小さくなる場合があります。

1 VSEボタンを押して、DSFモードにする



2 ダイレクトボタンを押して、DSFメニューを選ぶ

①～⑥

DSFメニュー

ボタン	機能名	内容
①	HALL(ホール)	広いホールのような音場
②	CHURCH(チャーチ)	天井が高い大聖堂のような音場
③	STADIUM(スタジアム)	天井が広い球場のような音場
④	LIVE(ライブ)	ライブハウスのような音場
⑤	JASSCLUB(ジャズクラブ)	天井が低いジャズクラブのような音場
⑥	THEATER(シアター)	劇場や映画館のような音場

3 VSEボタンを押して、元のモードに戻る



DSF効果をON/OFFする

ディスプレイのDSFインジケータ(DSF)が点灯しているときは、DSF効果が「ON」に設定されています。

- 初期設定は「OFF」です。
- DSF効果を「OFF」に設定すると、「DSFメニュー」で選んだ内容は、音楽ソースに反映されません。

1 VSEボタンを押し続ける(約1秒間)



VSEボタンを押し続けるたびに、ON/OFFが切り換わります。

P.EQを調整する

P.EQ調整機能について...

本機を接続することにより、さらに細かくP.EQ機能を調整することができます。ご自分の車に合わせて周波数を調整してください。

- 初期設定は、FREQ=1kHz,Q=1,GAIN=0dBです。
- ロータリーボリュームを急激に回すと、ノイズが発生する場合があります。

P.EQの調整について

P.EQメニューの調整内容は、以下の通りです。

- SIGNAL** : 調整用信号を選択します。
 - 「SGNL P-NOIS」 : ピンクノイズを使用するとき。
 - 「SGNL MUSIC」 : 音楽信号を使用するとき。
- SP-SEL** : 調整するスピーカーを選択します。
 - 「SP FRONT」 : フロントスピーカー
 - 「SP CENTER」 : センタースピーカー
 - 「SP SURROUND」 : リア(サラウンド)スピーカー
- BAND** : 調整する周波数バンド(BAND1~3)を選択します。
- FREQ** : BAND1~3における周波数を調整します。調整範囲は、20Hz~20kHzです。
- Q** : Qカーブを調整します。調整範囲は、1~20です。

Qカーブは、数値を大きく設定すると特性曲線が鋭く数値を小さくすると緩やかな特性曲線になります。
- GAIN** : 出力レベルを調整します。調整範囲は、-12dB~+12dBです。

1 EQボタン押して、調整モードにする



2 サーチボタンの<<または>>を押して、調整項目を選ぶ

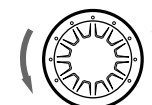


押すたびに、次のように切り換わります。

調整項目

- SIGNAL** : 調整用信号選択
- SP-SEL** : スピーカー選択
- BAND** : バンド(1~3)選択
- FREQ** : 周波数(20Hz~20kHz)
- Q** : Qカーブ(1/3/5/7/20)
- GAIN** : ゲイン(-12dB~+12dB)

3 ローターボリュームを時計方向または反時計方向に回して、調整する



4 EQボタンを押して、元のモードに戻る



P.EQ効果をON/OFFする

ディスプレイのP.EQインジケータ(P.EQ)が点灯しているときは、P.EQ効果が「ON」に設定されています。

- 初期設定は「OFF」です。
- P.EQ効果を「OFF」に設定すると、「P.EQを調整」で行った内容は、音楽ソースに反映されません。

1 EQボタンを押し続ける(約1秒間)



EQボタンを押し続けるたびに、ON/OFFが切り換わります。

初期設定を変更する (DXZ925の場合)

スピーカーの有無を設定する (SP-SEL)

センタースピーカー、リア(サラウンド)スピーカー、サブウーファースの有無を設定します。

・初期設定は、「ON」です。

ご注意

センタースピーカーおよびサブウーファーが無い場合は、必ず設定を「OFF」にしてください。

- 1 タイトルボタンを押し続けて(約1秒間) アジャストモードにする



- 2 サーチボタンの<<または>>を押して、「SP-SEL」Eを選ぶ



- 3 プレイ/ポーズボタンを押す

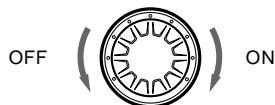


- 4 サーチボタンの<<または>>を押して、スピーカーを選ぶ



- ・CENTER-SP :センタースピーカー
- ・SURROUND-SP:リア(サラウンド)スピーカー
- ・SUB-WOOFER :サブウーファー

- 5 ロータリーボリュームを時計方向または反時計方向に回して、「ON」または「OFF」を選ぶ



・サブウーファースのときは、「ON+」か「ON-」あるいは「OFF」を表示します。通常は「ON+」を選択しますが、聴感上「ON-」の方が低域の効果が感じられる場合には「ON-」を選択します。

- 6 タイトルボタンを押して、元のモードに戻る



スピーカーのフィルター周波数を調整する(FILTER)

フィルター周波数について...

使用するスピーカーにあったフィルター周波数を設定します。

・「FRONT HPF」、「SRD HPF」の初期設定は、「THRGH」です。

・「CENTER HPF」、「SUB-W LPF」の初期設定は、120Hzです。

・「SP-SEL」の設定を、「OFF」に設定したスピーカーは調整できません。

フィルター調整について

- ・HPF (ハイパスフィルターの調整)

フロント/センター/リアスピーカーから低域の音をカットします。

50Hz, 80Hz, 120Hz

小口径スピーカーを使用するとき設定します。

THRGH

低音再生が可能なスピーカーを使用するとき設定します。

- ・SUB-W LPF (サブウーファースローパスフィルターの調整)

サブウーファースから高域の音をカットします。

50Hz, 80Hz, 120Hz

サブウーファースに合わせてフィルター周波数を設定します。

- 1 タイトルボタンを押し続けて(約1秒間) アジャストモードにする



- 2 サーチボタンの<<または>>を押して、「FILTER」Eを選ぶ



- 3 プレイ/ポーズボタンを押す



- 4 サーチボタンの<<または>>を押して、調整するスピーカーを選ぶ

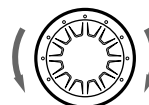


押すたびに、右のように切り換わります。

調整項目

FRONT HPF フロントスピーカー
CENTER HPF センタースピーカー
SRD HPF リア(サラウンド)スピーカー
SUB-W LPF (サブウーファース)

- 5 ロータリーボリュームを時計方向または反時計方向に回して、周波数を設定する



・「FRONT HPF」、「SRD HPF」の調整範囲はTHRGH、50Hz、80Hz、120Hzです。

・「CENTER HPF」、「SUB-W LPF」の調整範囲は50Hz、80Hz、120Hzです。

- 6 タイトルボタンを押して、元のモードに戻る



スピーカーの出力レベルを調整する(SP-GAIN)

スピーカー出力レベルについて...

本機に内蔵のテストトーン機能を使用して、各スピーカーから出力される音量が、全て同じレベルになるように調整してください。

・初期設定は、「0dB」です。

・「SP-SEL」の設定を、「OFF」に設定したスピーカーは調整できません。

- 1 タイトルボタンを押し続けて(約1秒間) アジャストモードにする



- 2 サーチボタンの<<または>>を押して、「SP-GAIN」Eを選ぶ



- 3 プレイ/ポーズボタンを押す



- 4 サーチボタンの<<または>>を押して、調整するスピーカーを選ぶ



押すたびに、次のように切り換わります。

調整項目

FRONT L (フロント左スピーカー)
CENTER (センタースピーカー)
FRONT R (フロント右スピーカー)
SURROUND R (リア右スピーカー)
SURROUND L (リア左スピーカー)
SUB-WOOFER (サブウーファース)

- 5 ロータリーボリュームを時計方向または反時計方向に回して、調整する



・スピーカーゲインの調整範囲は -10dB ~ +10dB です。

- 6 手順4~5を繰り返して各調整項目を調整する

- 7 タイトルボタンを押して、元のモードに戻る



本機にて確認

■ 初期設定を変更する (DXZ925の場合)

スピーカーのディレイ時間を調整する (DELAY)

ディレイ時間について...

スピーカーの取付位置や車の大きさによって、リスニング位置に届く音のタイミングが異なります。各スピーカーのディレイ時間を調整することにより、フロントスピーカーの出力と同じタイミングで聴こえるように調整することができます。

- ・初期設定は「0ms」です。
- ・「SP-SEL」の設定を、「OFF」に設定したスピーカーは調整できません。

- 1 タイトルボタンを押し続けて(約1秒間) アジャストモードにする



- 2 サーチボタンの◀または▶を押して、「DELAY E」を選ぶ



- 3 プレイ/ポーズボタンを押す

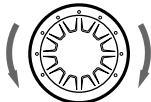


- 4 サーチボタンの◀または▶を押して、調整するスピーカーを選ぶ



- ・CTR-SP: センタースピーカー
- ・SRD-SP: リア(サラウンド)スピーカー

- 5 ロータリーボリュームを時計方向または反時計方向に回して、ディレイ時間を調整する



- ・「CTR-SP」の調整範囲は 0ms ~ 5ms です。
- ・「SRD-SP」の調整範囲は 0ms ~ 15ms です。

- 6 タイトルボタンを押して、元のモードに戻る



ドルビーデジタル機能を設定する (Dolby D)

ダイナミックレンジコンプレッション機能について...

ドルビーデジタルのダイナミックレンジを圧縮する機能で、映画のセリフなどの小さな音を維持して、大音量を抑制します。この機能はドルビーデジタル方式のDVDソフトにのみ有効です。

- ・初期設定は「MAX」です。

- 1 タイトルボタンを押し続けて(約1秒間) アジャストモードにする



- 2 サーチボタンの◀または▶を押して、「Dolby D」を選ぶ



- 3 ロータリーボリュームを時計方向または反時計方向に回して、「MAX」、「STD」または「MIN」を選ぶ



- ・MAX: オリジナルソースそのままのダイナミックレンジ最大のモード
- ・STD: 一般視聴用として推奨するモード
- ・MIN: 小音量でも聴きやすい、ダイナミックレンジを最も圧縮したモード

- 4 タイトルボタンを押して、元のモードに戻る



ミュージックモードを細かく設定する (PL CONT)

PL メニューのミュージックモードを選択した場合に、さらに細かく調整することができます。

- ・初期設定は、パノラマ「N」、ディメンション、センターワイズ「3」です。

各調整項目について

- ・PANORAMA (パノラマコントロールの設定) フロントの音場イメージをリアスピーカーまで拡大します。サラウンド効果がないと感じられる場合に、「Y」(Yes)に設定してください。

- ・DIMENSION (ディメンションの設定) 音場イメージをフロント側またはリア側にシフトします。音場イメージがフロント・リア側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

調整値3が中心位置です。調整値3~0でフロント側にシフトし、調整値3~6でリア側にシフトします。

- ・CTR WIDTH (センターワイズの設定) (1) センターチャンネルの定位をセンタースピーカーからフロントスピーカーL/Rの間で調整します。センター音を左右に振り分けることにより、全体の音場イメージが増し自然な広がり感を得ることができます。調整値0は、全てのセンター音をセンタースピーカーで再生します。調整値7は、現行のステレオ音声同様、センター音をフロントスピーカーL/Rに振り分けず。

- (1) センターワイズの設定は、「SP-SEL」のセンタースピーカー設定を、「OFF」にした場合は、調整できません。

- 1 タイトルボタンを押し続けて(約1秒間) アジャストモードにする



- 2 サーチボタンの◀または▶を押して、「PL CONT E」を選ぶ



- 3 プレイ/ポーズボタンを押す

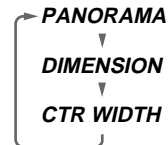


- 4 サーチボタンの◀または▶を押して、各調整項目を選ぶ

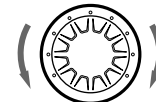


押すたびに、次のように切り換わります。

●調整項目



- 5 ロータリーボリュームを時計方向または反時計方向に回して、調整する



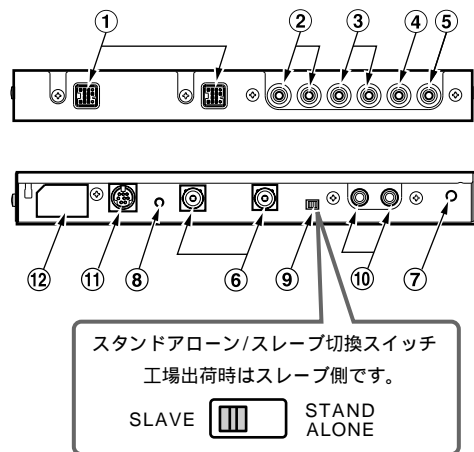
- ・「PANORAMA」の設定を Y(Yes)/N(No) します。
- ・「DIMENSION」の調整範囲は 0~6 です。
- ・「CTR WIDTH」の調整範囲は 0~7 です。

- 6 タイトルボタンを押して、元のモードに戻る



結線方法

各部の名称



① CeNET端子

CeNETケーブルでセンターユニット等を接続します。

② フロント用RCA出力端子

RCAピンケーブルで外部パワーアンプを接続します。

③ リア用RCA出力端子

RCAピンケーブルで外部パワーアンプを接続します。

④ サブウーファー用RCA出力端子

RCAピンケーブルで外部パワーアンプを接続します。

⑤ センタースピーカー用RCA出力端子

RCAピンケーブルで外部パワーアンプを接続します。

⑥ デジタル入力端子

(別販)デジタル光ファイバークーブルでDVD/CD/MDチェンジャーを接続します。

* 黒コネクタ側を接続してください。

⑦ ケーブルクリップ挿入穴

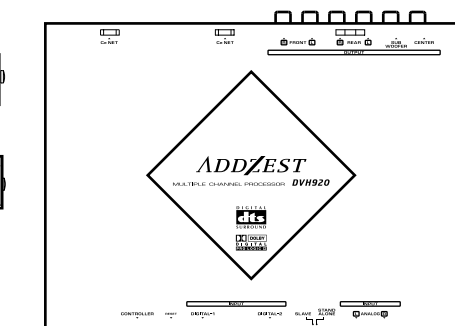
ケーブルクリップを挿入し、デジタル光ファイバークーブルを固定するときに使用します。

⑧ リセットスイッチ

音が出ないときなどに、リセットスイッチを押してください。

ご注意

リセットスイッチを押す場合、CeNETケーブルを接続した状態で行ってください。



(別販)DVH920を接続するときに使用します。

⑨ スタンドアローン/スレープ切換スイッチ

スタンドアローンモード

・本機を操作できないセンターユニットを接続した場合は、スタンドアローン側にします。

スレープモード

・本機を操作可能なセンターユニットを接続した場合は、スレープ側にします。

⑩ アナログ入力端子(RCA)

センターユニット等のRCA2ch出力を接続します。

ご注意

コントロールユニットを接続した場合に限り、使用することができます。

⑪ コントロールユニット用8PminiDIN端子

コントロールユニットを接続します。

⑫ コントロールユニット用電源コネクタ

電源コードを接続します。

* 必要以外は、テープをはがさないでください。

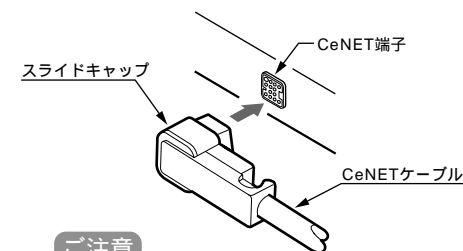
結線のしかた

以下の番号の順にしたがって作業を行ってください。

1. CeNETケーブル

- ・CeNETケーブルは図のような向きにして、ロックするまで確実に差し込んでください。
- ・CeNETケーブルを抜くときは、スライドキャップ部を軽くつまんで引いてください。

CeNETケーブルを延長するときは、別販のCeNET延長ケーブルCCA-520(2.5m)、CCA-521(0.6m)のいずれかをお使いください。詳しくは、販売店にご相談ください。



ご注意

CeNETケーブルは、接続部が外れないように余裕を持って配線してください。

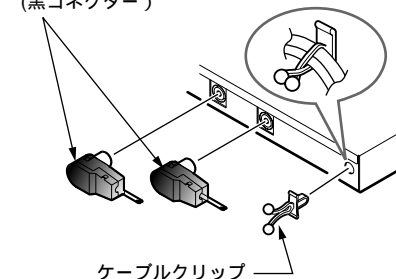
2. (別販)デジタル光ファイバークーブル

- ・デジタル入力端子に、黒コネクタをロックするまで確実に差し込んでください。ケーブルクリップは、デジタル光ファイバークーブルを2本まで固定できます。
- ・デジタル光ファイバークーブルを抜くときは、コネクタの左右のつまみを押しながら引き抜いてください。

ご注意

デジタル光ファイバークーブルは、半径1.5cmの弧より小さく曲げないでください。1.5cmの弧より小さく曲げると、性能が著しく低下します。

デジタル光ファイバークーブル
(黒コネクタ)

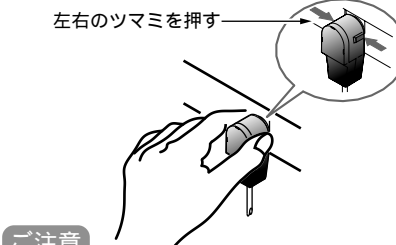


3. (別販)RCAピンケーブル

- ・RCAピンケーブルを接続するときは、接続先を確認してから接続してください。

4. リセットスイッチ

- ・結線終了後、リセットスイッチを押して、初期状態にしてください。



ご注意

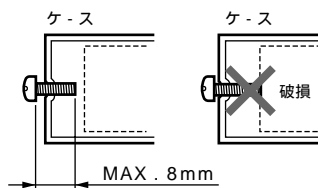
デジタル光ファイバークーブルを抜き差しは、必ず電源をOFFにして行ってください。

取付方法

取付上のご注意

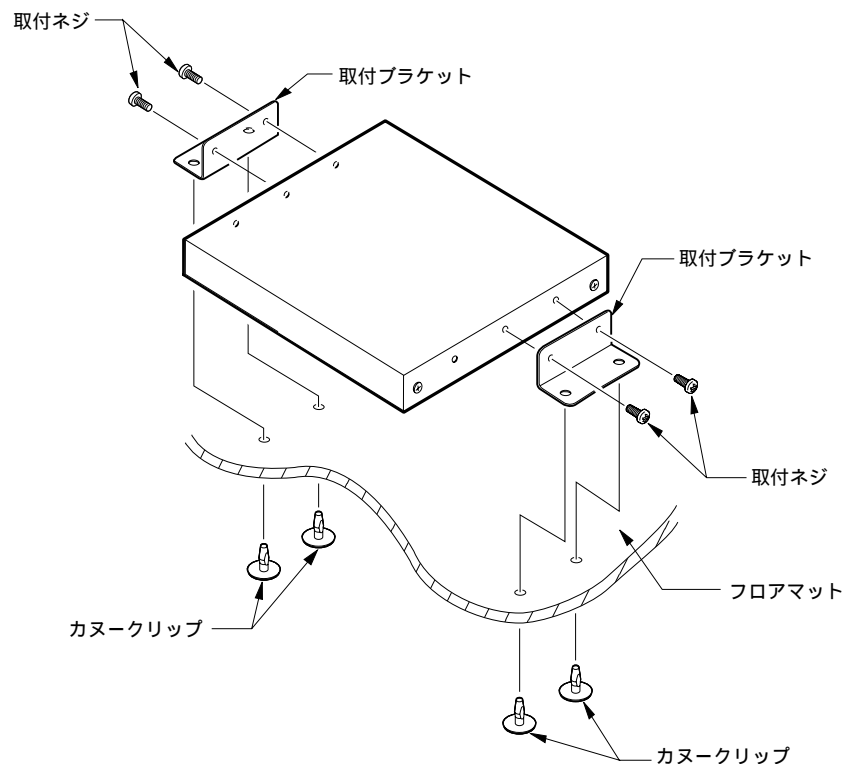


・取り付けには、必ず付属のネジを正しくご使用ください。指定以外のネジを使用すると、事故や故障の原因となります。



取付例 (シート下へ取付ける場合)

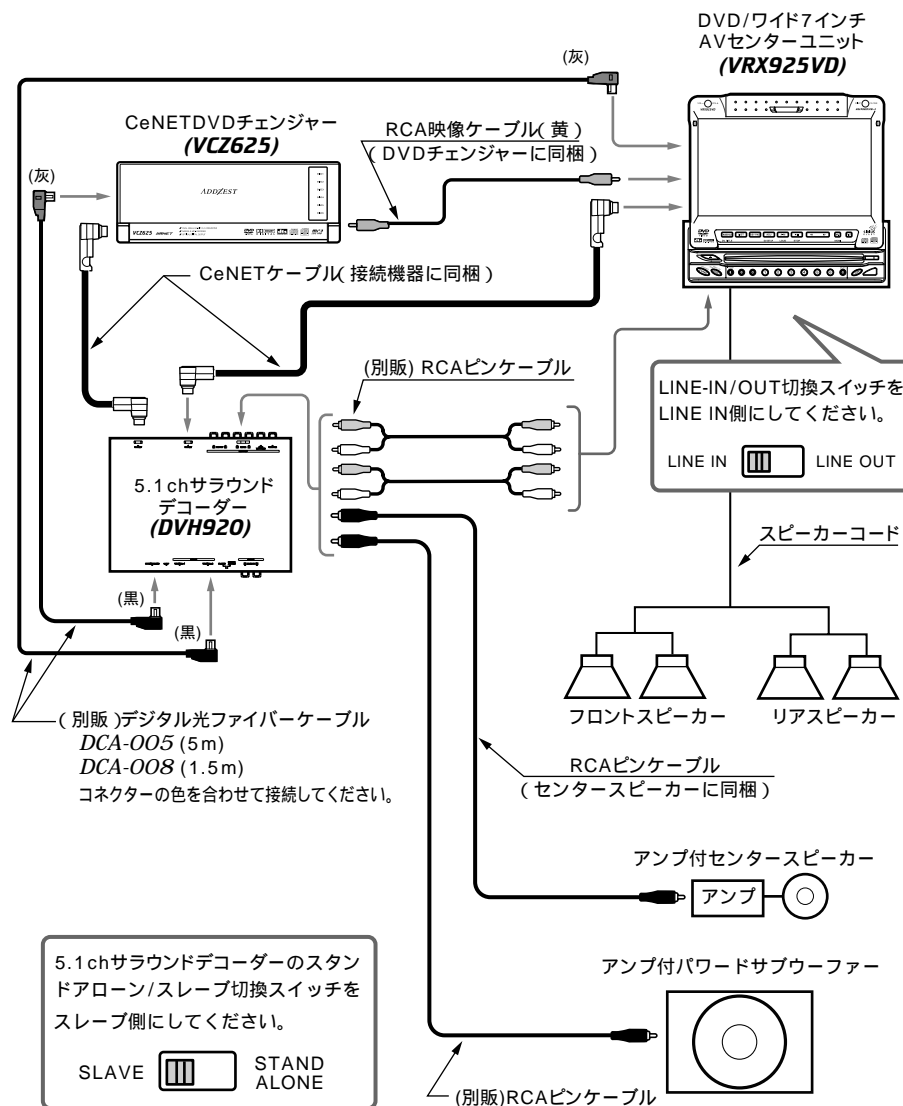
1. 本機の左右側面に、付属の取付ネジ (M4×8) で取付ブラケットを取付けます。
本機には、取付穴が左右に3ヶ所ずつあります。取付位置に合わせて、取付穴を選んでください。
2. 取付位置を決めフロアマットに置き、取付ブラケットの穴に合わせてフロアマットに穴を開けます。
3. 付属のカヌークリップをフロアマットの裏側より、取付ブラケットの穴の押し込みます。



システムアップについて

システム例 (VRX925VD+DVDチェンジャーの組み合わせ)

AVセンターユニットの操作により本機をコントロールすることができます。また、本機を接続することによりDTS、ドルビーデジタル等の5.1ch再生がお楽しみいただけます。

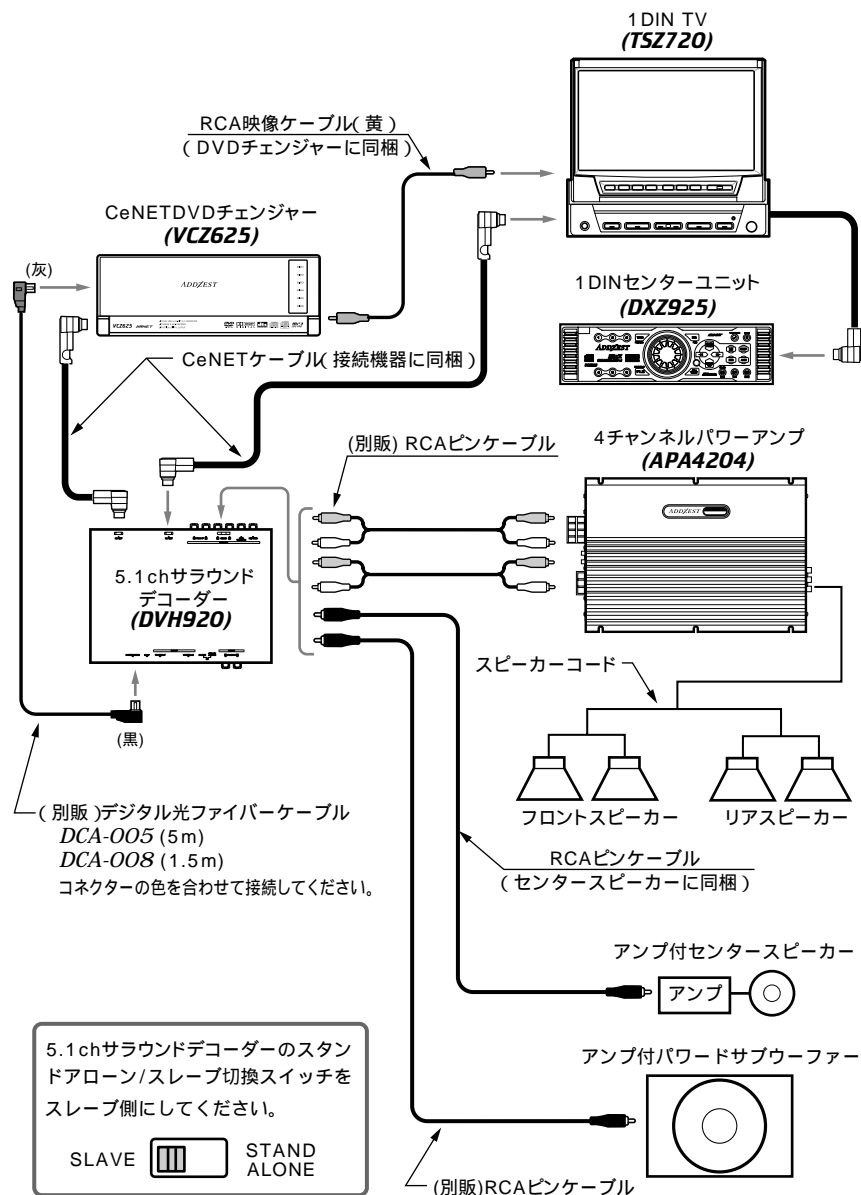


その他

■ システムアップについて

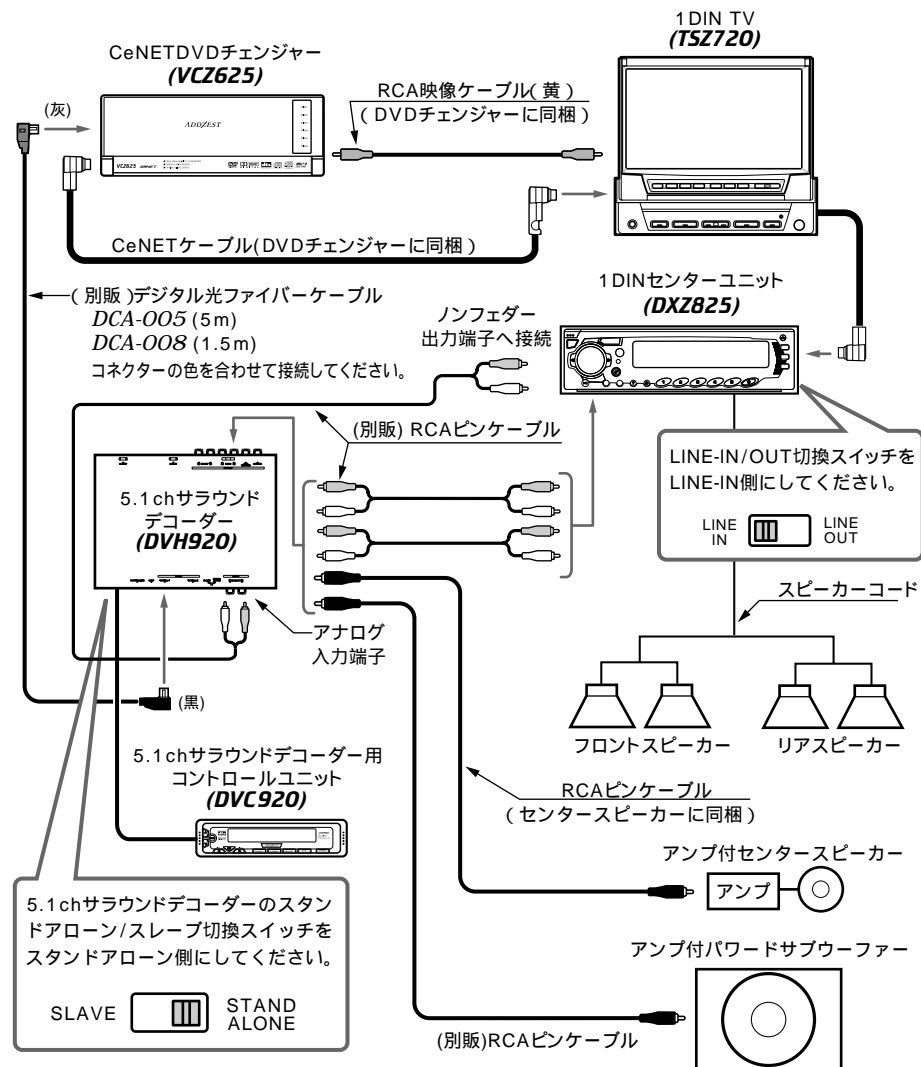
システム例 (DXZ925+DVDチェンジャー+モニターの組み合わせ)

センターユニットの操作により本機をコントロールすることができます。また、本機を接続することによりDTS、ドルビーデジタル等の5.1ch再生がお楽しみいただけます。



システム例 (DXZ825+DVDチェンジャー+モニターの組み合わせ)

本機をコントロールできないアゼストセンターユニット (CeNET対応) でも、(別販) コントロールユニット (DVC920) を接続することにより本機を操作することができます。



ご注意

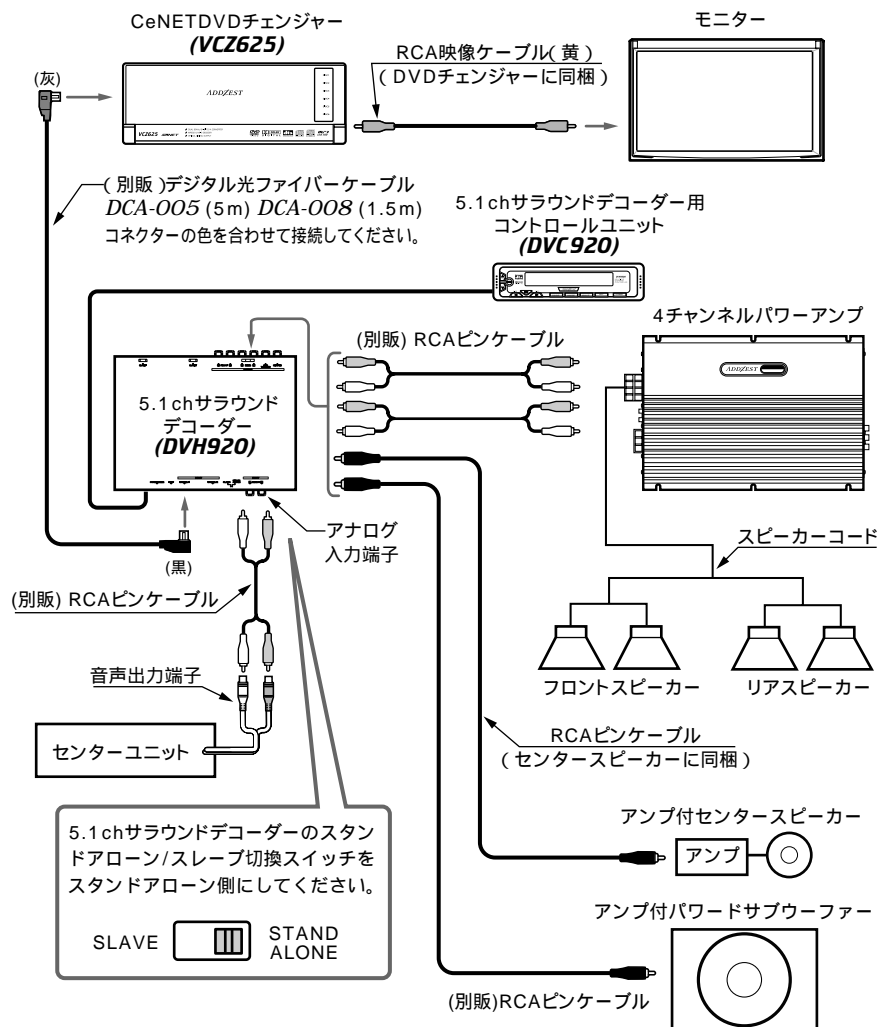
- ・DVDチェンジャーのCeNET/スタンダアローン切換スイッチを、CeNET側に切換えてください。
- ・光ファイバーケーブルを接続する場合は、DVDチェンジャーの音声出力端子(AUDIO OUT)は、接続しないでください。また、DVDチェンジャーに付属の取扱説明書の「初期設定を変更する」をご覧になり、「GENERAL SET UP」メニューの「AUDIO OUT」を「SPDIF/RAW」に変更してください。
- ・DVC920に付属の電源コードは、必ず接続してください。

その他

■ システムアップについて

システム例(センターユニット + DVDチェンジャー + モニターの組み合わせ)

本機をコントロールできないIRCA2ch音声出力のあるセンターユニットでも、(別販)コントロールユニット(DVC920)を接続することにより操作することができます。また、DVDチェンジャーは、デジタル結線が可能です。



ご注意

- ・DVDチェンジャーのCeNET/スタンドアローン切換スイッチをスタンドアローン側に切換えてください。
- ・光ファイバークーブルを接続する場合は、DVDチェンジャーの音声出力端子(AUDIO OUT)は、接続しないでください。また、DVDチェンジャーに付属の取扱説明書の「初期設定を変更する」をご覧ください。になり、「GENERAL SET UP」メニューの「AUDIO OUT」を「SPDIF/RAW」に変更してください。
- ・DVC920に付属の電源コードは、必ず接続してください。

■ 故障と思われる前に

次のような症状は、故障ではないことがあります。修理を依頼される前に、もう1度次のことをお調べください。

症 状	原 因	処 置
ボタンを押しても動作しない、ディスプレイが正確に表示しない。	ノイズなどが原因で、マイコンが誤動作している。	5.1chサラウンドデコーダー側面のリセットスイッチを細い棒などで押してください。 リセットスイッチを押すとメモリーしたタイトル等が全て消去されます。 5.1chサラウンドデコーダー リセットスイッチ
センタースピーカーから音が出ない	音楽CD、リニアPCM(ステレオ)等センタースピーカーの信号がない2chソースを再生している場合。 ドルビープロロジック またはDSFが「OFF」になっている。 センタースピーカーの設定を「OFF」にしている(初期設定ON)	ドルビープロロジック の各モードを選択するか、DSF効果を「ON」に設定してください。(P12~P13参照) センタースピーカー (SP-SEL)の設定を「ON」に設定してください。(P14参照)

■ 仕 様

デジタル/アナログ処理部

周波数特性	: 20Hz ~ 44kHz (リニアPCM96kHz)
SN比	: 95dB以上 (IHF-A、音場効果OFF)
セパレーション	: 80dB以上 (デジタル入力時)
全高調波歪率	: 0.01%以下 (デジタル入力時)
アナログ出力/インピーダンス	: 4V/330 (6ch出力)

DSP/EQ部

DSF	: 6パターン
P-EQ調整機能	
バンド	: 3バンド x 3ch (センター、フロント、サラウンド)
F (中心周波数)	: 20Hz ~ 20kHz (1/3オクターブステップ、31ポイント)
Qカーブ	: 1 ~ 20 (5ポイント)
GAIN	: ±12dB

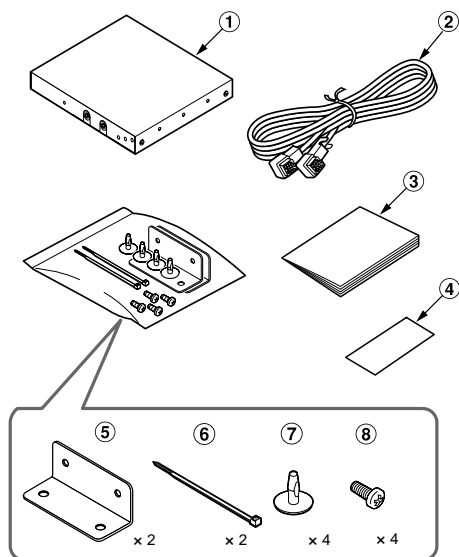
共通部

電源電圧	: DC14.4V (10.8 ~ 15.6V)
接地方式	: マイナス接地
消費電流	: 480mA
外形寸法	: 230(W) x 25(H) x 170(D)mm
質量	: 900g

* これらの仕様およびデザインは、改善のため、予告なく変更する場合があります。

その他

製品構成



- ① 本体(DVH920)
- ② CeNETケーブル(5m) 1本
- ③ 取扱説明書 1部
- ④ 保証書 1部
- ⑤ 取付ブラケット 2個
- ⑥ リードクランプ 2本
- ⑦ カヌークリップ 4個
- ⑧ 取付ネジ(M4 × 8) 4本

アフターサービスについて

保証書

この商品には、保証書が添付されています。お買い求めの際、販売店で所定事項を記入いたしますので、記入および記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。なお、保証書は再発行いたしませんので、ご注意ください。

保証期間

お買い求めの日より1年間です。

万一故障が発生した場合

保証期間中に、正常な使用状態で故障が発生した場合には、保証の記載内容に基づいて、無料で修理いたします。
お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

保証期間経過後の修理について

修理することにより性能が維持できる場合には、お客様のご要望により、有料で修理いたします。

クラリオン株式会社

本 社 〒112-0001 東京都文京区白山5-35-2
お客様相談室 〒335-0001 埼玉県戸田市上戸田 50
フリーダイヤル 0120-112-140 (土・日・祝・祭日を除く
9:00~12:00、13:00~17:30)

ご購入年月日	年 月 日
ご購入店名	
	TEL.
製造番号	

お客様へ..... ご購入年月日、ご購入店名などを記入されると、あとでお問い合わせされるときに便利です。